

日本薬学会第142年会 ランチョンセミナー LS09

# TDMの現状と展望

～教育現場から臨床への架け橋を考える～

The current problems and prospects of  
therapeutic drug monitoring

3月27日(日)

12:15~13:15

TDMが我が国の医療現場に導入されて久しい。今日までに濃度測定法の進歩や、多くのエビデンスに裏付けされた詳細な指標血中濃度域の確立、あるいは血中濃度の予測精度の向上といったTDMの研究成果は枚挙にいとまがない。

言うまでもなくTDMは、採血や検体の取り扱いが正しくなされているとの前提の上に成り立つものであるが、演者らの調査によると、採血タイミングの大幅なズレをはじめとする検体の取扱い(例えば、抗凝固剤の有無や温度管理など)に関するエラーの発生率が30%にも達することが判明した。…(続きはセミナーでご覧ください。)

## 講演者

同志社女子大学薬学部  
臨床薬剤学研究室

松元 加奈 先生

## 座長

慶應義塾大学薬学部

金澤 秀子 先生

日立ハイテクの特設サイトでは、TDMやAS活動に関する先生方のご講演をオンデマンド配信しています。

「薬物血中濃度モニタリングに薬物動態関連遺伝子多型情報を如何に活用すべきか」

「科学的根拠に基づいた耐性菌感染症治療～今日から使えるエビデンス～」

「TDMで遭遇する薬物血中濃度測定法に関する問題点」他。

特設サイトのご登録はこちら



<https://i-entry.jp/v4/form/hhs/lm1010/input>